

## 令和7年度 第2回藤沢市図書館協議会 会議録

日 時 2025年(令和7年)8月28日(木)  
午前10時から正午まで

場 所 オンライン会議(総合市民図書館 第一会議室)

出席者 委員側 6名  
委員長 小泉 公乃  
委 員 寺田 芳朗、小寺 敏夫、小笠原 貢、富田 唯里、服部 洋之

図書館側 8名

総合市民図書館	館長	饗庭 寛子
	主幹	増田 弓子
	館長補佐	高田 ひとみ
	館長補佐	加藤 航輔
	館長補佐	倉田 岳
	上級主査	久松 歌織
	主任	鈴木 健太
	担当	神田 友梨子

### NPO 法人市民の図書館・ふじさわ

事務局長	河村 融
南市民図書館責任者	太田 敦子
辻堂市民図書館責任者	小倉 由美子
湘南大庭市民図書館責任者	夏井 恵理子

#### 1 開会

#### 2 議題

- (1) 「藤沢市子ども読書活動推進計画」の改定について
- (2) 図書館アンケートについて
- (3) 生活・文化拠点再整備事業について
- (4) 議会報告(6月)について
- (5) 事業報告(5月～7月)
- (6) その他

事務局  
(高田補佐) 定刻になりましたので、これより令和7年度第2回藤沢市図書館協議会を開催いたします。本日はZoomによるオンライン開催となります。では、議題に入ります前に、館長からご挨拶いたします。

事務局 \*饗庭館長挨拶

事務局 それでは協議会を開催いたします。議事の進行につきましては、小泉委員長をお願いいたします。

小泉委員長 それでは、令和7年度第2回藤沢市図書館協議会を開催いたします。はじめに本日の会議成立について事務局からお願いいたします。

事務局 事務局から会議成立のご報告をいたします。  
(高田補佐) 本会議の成立につきましては、「藤沢市図書館に関する規則」第21条第2項に「委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない」と規定されております。

本日は植松委員が御欠席となりますが、六人のご参加をいただいておりますので、本会議が成立していることを、ご報告させていただきます。本日傍聴者はありません。

続きまして資料確認をいたします。事前にメール等で送付いたしました資料をご準備ください。

- ・次第
- ・【修正版】令和7年度第1回図書館協議会会議録
- ・図書館アンケートについて
- ・別紙 自由意見等
- ・生活・文化拠点再整備事業について
- ・議会報告（6月）について
- ・事業報告（5月～7月）

資料はお揃いでしょうか。不足があればお知らせください。なお、資料はZoom内で画面共有させていただきます。では、小泉委員長よろしくをお願いいたします。



(加藤補佐)

ております。まず、資料1の1ページ目がアンケートの概要です

実施時期は、5月から6月にかけて22日間実施いたしました。回答対象は、図書館利用者及び図書館を利用していない人も対象としております。実施方法は、今回は紙ではなくWebアンケート方式でございます。周知方法は、ポスターの掲示、ホームページに加え、藤沢市の公式LINEにて、約11,000人の登録者にも周知いたしました。その他、市職員用の掲示板でも周知いたしました。

回答者数は1,165人でした。有効回答率が100%ではない理由は、回答未入力のまま回答フォームを閉じたケースも回答者数としてカウントされてしまったためです。回答の設定につきましては、次回実施時の課題とさせていただきます。

2ページ目からは、具体的な設問と回答となります。まずは、利用者向けのアンケートから説明いたします。「1-1 主に利用する図書館」につきましては、「南市民図書館」「総合市民図書館」という順番になっておりまして、利用者数に比例した数字になっていることがわかります。

「1-2 図書館の利用頻度」は、「月一回以上」の利用が全体の約80%を占めており、回答者は継続的に図書館を利用されている方が多かったことがわかります。「1-3 来館時の交通手段」につきましては、約6割以上が「徒歩」「自転車」ということで、図書館の近くにお住まいの方が多という結果になっています。

「1-4 初めて図書館を利用したきっかけ」は、「希望する資料があった」が50%、「立地条件」が16%、「子どものため」が10%、その他ばらつきのある結果になっています。「1-5 図書館をどのように利用されていますか？」という設問については、「貸出・返却」が約6割程度を占めています。

「1-6 図書館を利用した感想」については、これまでの設問に比べて回答が割れています。図書館が主に充実した時間を過ごす場、情報や知識の発見の場としての評価を受けていることが伺えます。一方、学業や仕事の成果面での効果、課題解決や居場所としてのあり方に改善の余地があると分析できます。「1-7 施設・資料の満足度」について、「蔵書の充実」「アクセスの良さ」「スタッフの対応」の順に満足度が高い一方、「開館時間」「雑誌等の蔵書」「駐車場等の不足」といった施設面は満足度が低い結果になっています。「1-8 図書館で充実させてほしい

こと」につきまして、回答をまとめると、利便性の向上と利用環境の拡充に対する要望が高いことが数字として見受けられます。

以降は、回答者の属性についての設問となります。「5-1 男女別比率」では女性が若干多く、「5-2 年齢」については30代より若い方の回答が少ないことがわかります。「5-3 職業」については、ウェブ形式のアンケートということもあり、会社員や公務員の回答が約40%と、最も高い比率を占めておりました。学生等の回答が少なかった点は、次回の課題と認識しています。「5-4 住所」につきましては、南館利用者が多いと思われる鶴沼地区が最も多く、その他の各地区から回答をいただきました。

7ページ目の後半からは、図書館を利用してない方向けの設問をまとめております。今回、アンケート全体で1,100人以上からの回答がありましたが、図書館を利用してない方の回答は約40人弱と、比率としては少数でした。図書館を利用してない方も対象としたアンケートは、全国的に見てもあまり多くないようで、他の自治体のアンケートの結果をみたところ、図書館を利用してない方の回答は10人程度でした。図書館利用者以外の意見も知る必要があると考えておりますが、次回の課題にさせていただきたいと思っております。

「2-1 藤沢市図書館を最後に利用したのはいつ頃か」という設問につきましては、「5年以上前」という回答が一番多い結果となっております。「2-2 利用していない理由」については、回答が割れました。「時間がない」「本を借りる必要がない」「手続きが面倒」「立地の都合」が上位になっております。「2-3 ご要望」につきましては、こちらも多岐にわたっており、「資料の充実」「閲覧席の拡充」「その他施設面の要望」が上位に入る結果でした。

「問4 自由記述欄」については別紙にまとめております。

問5-1から5-4は、先ほどと同様に、回答者の性別、年齢、職業等の分布です。

次は、利用している方も利用していない方も含めて、藤沢市電子図書サービスについての設問と回答になります。

「3-1 電子図書サービスを利用したことがありますか？」という問いには、「利用したことがない」という回答が約75%と多く、「一年に数回」も含めると80%を超え、電子図書の認知向上という課題が率直に現

れた結果となっております。「3-2 利用する端末」については、「スマートフォン」が一番多いという結果でした。「3-3 利用する主な場面」につきましては、「自宅で一人で読む」という回答が最多でしたが、スマートフォン利用が多いという側面もあり、「通勤通学中」という回答も約2割といった結果でした。

「3-4 利用したい電子書籍のジャンル」につきましては、「小説」の次が「実用書」「コミック」「雑誌」ということで、気楽に読めるジャンルが多いことがわかります。「3-5 現在までに利用した電子書籍のジャンル」につきましては、3-4 と同じような比率ですが、藤沢市の電子書籍には雑誌がないため、アンケート結果にも「雑誌」は入っておりません。こちらの設問では、利用していないという方の回答もその他に含まれてしまっております。

「3-6 藤沢市電子図書サービスの満足度」については、満足とやや不満がほぼ同数となっていることがわかります。

「3-4 自由記述欄」は別紙をご参照ください。

アンケートの結果につきましては、まず速報として以上のような内容となっております。別紙に添付した自由記述欄につきましては、たくさん頂いたご意見をどのように分析するか、現在検討中です。よい分析方法があれば教えていただきたいです。今回、回答者の年齢をご回答いただいたので、年齢別にクロス集計し、自由記述も年齢を基軸に改めて分析し、最終的な図書館としての報告にしたいと思っております。

小泉委員長

事務局からの説明が終わりました。

委員の皆様から、ご意見ご質問などございますでしょうか。

服部委員

アンケートお疲れ様でした。市民の今の図書館に対する意識というのがわかりましたが、速報とおっしゃるとおり、もう少し詳細な思考をしていかないと色々見えてこないと思います。例えば、「1-4 初めて図書館を利用したきっかけ」に対し、「希望する資料があったから」という回答がありましたが、図書館に来てブラウジングして見つかったのか、あるいは、あらかじめ検索して見つけてきたのか、という手前の行動がわかりません。回答からは、来館したか否かもわからないので、より深く問を設定すると、示唆に富んだ中身が出てくるのかなと思います。

あとは、ウェブの回答者のデモグラフィックが国勢調査の比率に対応しているかどうかわかりませんが、回答者の年代が60～80代が4割を超えています。今後、図書館のサービスについて、今まで障害者サービスの中に含まれていた高齢者サービスは2000年からだいぶ変わりましたが、それでもやはり高齢者に向けたサービスなのか、資料に関するサービス以外にも、居場所やコミュニティといった役割が考えられるのかなとも思います。

あとは、現時点では単純集計だけなので、クロス集計すると色々なものが見えてくるかもしれませんが、自由意見の分析もこれからのようですね。自由意見にも目を通しましたが、場所、席、カフェなどの要望件数が多いので、次のOUR Projectに結びつくような、図書館の役割やあり方につながるかなと思いました。

小笠原委員

二点ほど質問があります。まず1ページ目の周知方法について、どの周知方法が最も有効だったのか、もし検証されていれば教えていただきたいです。

それと8ページの「2-2 図書館を利用していない理由」につきまして、結果の3番目に「貸出や返却の手続きが面倒であるため」という回答がありますね。そのようなご意見への対応だと思いますが、8月11日から湘南台駅に返却ポストが設置されましたよね。私も広報ふじさわで知りましたが、それ以外で継続して周知しているのでしょうか。

以上二点をお伺いしたいです。

事務局

(加藤補佐)

有効な周知方法について、明確な数字はご用意できておりませんが、藤沢市の公式LINEの回答が一番多かったと捉えています。回答者数は、始めのころは多く徐々に少なくなる傾向にあります。図書館ホームページとLINEは同時に投稿し、その後職員用の掲示板に投稿したタイミングで、回答者が増えました。タイミングもありますが、LINEの周知効果は非常に大きかったです。LINEを昼の12時に投稿した後1時間のうちに200人程に回答いただけましたので、LINEは今後も活用してまいります。このようなツールは積極的に活用しつつ、さらに効果的な利用方法があれば次につなげてまいりたいと思っております。

二点目のご質問につきまして、お話いただいたとおり湘南台駅にブッ

クポストを設置いたしました。広報ふじさわや図書館ホームページで周知しておりますが、ポストはまだ満杯になるような状況ではないので、さらなる周知を検討していきたいと思っております。

小泉委員長           ちなみに、公式LINEは何人の方が登録されていらっしゃるんですか。

事務局  
(加藤補佐)           正確な数字は把握できておりませんが、全体として10万人以上の登録者がおります。藤沢市の公式LINEは、登録者自身が欲しい情報の分野を選んで受信する仕組みになっており、今回は、イベント関係の情報を受信する設定をしている方約11,000人に周知いたしました。

小泉委員長           ありがとうございます。服部委員のおっしゃるとおり、やはり今後クロス集計してみないとわからないと思いました。  
それから、電子書籍のアクセスログの分析は可能なのでしょうか。

事務局  
(加藤補佐)           電子書籍には色々な分析機能があり、利用者カードとも連携できますので、年齢等も分析可能ですが、そこまで活用できておりません。その点も、今回のアンケート結果も含めて、分析が必要と考えております。  
今回のアンケートで、電子書籍の利用が進んでいないことが明らかになりました。周知ももちろん必要ですが、来年の図書館システムの更新で、藤沢市図書館システムと電子書籍が連携し、例えば、藤沢市図書館のホームページの検索結果に電子書籍も表示されるようになります。  
他の自治体の事例を見ると、図書館ホームページと連携して初めて電子図書を知ったという方もいるようで、連携効果は非常に大きいと思います。どの程度普及できるか期待しつつ、またご報告させていただければと思います。

小泉委員長           ログは活用できること、システムの連携によりできることが増えること、周知もよりしやすくなること、以上三点ご説明いただきました。  
紙の本の貸出履歴の分析はなかなか大変だとは思いますが、電子書籍であれば分析しやすいので、実際のデータと利用者の方の声の二つを見ることができたら、図書館としてより精度の高い意思決定ができると思いました。アンケート結果のクロス集計、その他のところも含めて分析

をよろしくお願ひいたします。

小泉委員長

それでは、次の議題に移ります。

議題（３）生活・文化拠点再整備事業について事務局から説明をお願いします。

事務局

生活・文化拠点再整備事業について、情報共有させていただきます。

（増田主幹）

今回、資料として藤沢市のプレスリリースをお示ししております。これまで生活・文化拠点再生備事業につきまして、公募型プロポーザルという形で、管理・運営計画策定業務委託と基本設計委託の事業者を選定してまいりました。この度7月4日付けで、優先交渉者権者と次点交渉者権者を決定しました。

まず、管理・運営計画策定業務委託につきましては、優先交渉者権者が株式会社 JTB コミュニケーションデザインを代表企業とする業者に決定しました。基本設計委託につきましては、安井・隈・戸田風景設計共同体に決定しました。

これまで2月から公募を開始し、6月の公開プレゼンテーションを踏まえて、以上の業者と契約の手続きを進めているところでございます。

次のページはこれまでのスケジュールと現在の状況が掲載されており、8月中に契約ということで、担当課の企画政策課が契約手続きを進めております。

図書館は、まだ直接事業者とやり取りはしておらず、これまで審査の行方を見守っていたという状況となっております。こちらの契約手続きと三者協定が締結されたら、個々にやり取りをしていく形になると聞いております。その中でヒアリングと個別の調整、全体の調整を繰り返していくという形になっております。

資料でのご説明は以上ですが、ちょうど先週8月20日付で、こちらの公募型プロポーザルの審査公表が公表されました。業者選定の経過や優先交渉権者を決定した評価などが示されております。藤沢市ホームページに掲載されておりますので、よろしければご覧いただければと思います。

小泉委員長

事務局からの説明が終わりました。委員の皆様から、ご意見ご質

問などございますでしょうか。

(意見等なし)

小泉委員長

それでは、次の議題に移ります。

議題（４）議会報告（６月）について事務局から説明をお願いします。

事務局

(饗庭館長)

今回は、一般質問で藤沢市公明党の今井みきこ議員から質問がございました。本日ご報告の資料には図書館として生涯学習部長からお答えをさせていただいた質問について掲載しております。今井議員からは、教育、子育て施策についてという件名の中の、「子どもと本について」という要旨の中で、全１３問のご質問をいただいております。

教育委員会へのご質問をご紹介させていただくと、「本や読書の重要性について教育委員会の受け止めを聞きたい」「学校図書館の図書の購入実績や廃棄の状況」「除籍の基準と、廃棄でなく活用される図書もあるのか聞きたい」「蔵書数及び蔵書率」「蔵書率の最近の傾向とその理由」「魅力ある図書館づくりのために学校図書館で取り組んでいる工夫について聞かせてほしい」「学校図書館専門員の資格と配置状況など」「学校図書館専門員の研修について聞きたい」「電子書籍の活用やデジタル教材導入の現状と今後について」という９問がありまして、その次に資料に掲載させていただいている生涯学習部関連の質問がありました。

まず、「小中学生の公共図書館とのつながりについて、学校図書館や公共図書館との連携の現状と今後について教えてほしい」というご質問に対しては、「団体貸出、利用ガイダンス、施設見学、職場体験、おはなし会などの取組を実施している。また、市民図書館の電子図書サービスは、すべてのコンテンツを児童・生徒が利用できるようにしているほか、学校で有効に活用できるよう、教員や学校図書館専門員の集まる研修会で利用方法等を紹介している。学校や学校図書館で「読む力」を育んだ子どもたちが、豊富な資料から読書に親しむことができる身近な施設である市民図書館を知ること、更に本とのつながりを深めていただけるよう、今後も市民図書館と学校との連携を継続していきたい。」という内容でご答弁しております。

また、「ふじさわ子ども読書プランの策定をされていると伺っている

が、その概要と改定に向けた方向性について教えてほしい」というご質問に対しては、「社会環境が変化し続ける中でも、子どもの読書活動というのはとても重要と認識している。次期計画においても、学校や地域と連携し、子どもが本に親しみ読書を楽しみ続けるための機会の提供、環境の整備を一層推進できるよう検討していく」との内容でご答弁をいたしました。

その後、「学校図書館の図書購入費の拡充をすべきと考えるが、お考えを伺いたい」「学校の蔵書管理システムの導入を速やかに進めていただきたいと考えるが、今後の計画について聞かせてほしい」とのご質問があり、こちらには教育委員会からお答えをいたしました。

小泉委員長 事務局からの説明が終わりました。委員の皆様から、ご意見ご質問などございますでしょうか。

寺田委員 学校図書館はこの図書館協議会の議論対象ではないと思いますが、我々は学校図書館についても、その実態を勉強しておく必要があると思っています。これまでに三つの市で図書館基本計画のお手伝いをしたときに、図書館協議会や学校の先生方の教育研究会、図書館部会等に小中学校別々にヒアリングを行いました。その場で定量的に状況を把握することは困難でした。貸出密度など利用統計をとったことのない学校が多い地域もありました。そこで、私達は毎回、その市全体の小中学校の学校別に「年間生徒児童一人当たり貸し出し冊数」を表で明らかにしてきました。数字にして、学校間や他市の学校図書館と比べてみると、それぞれの学校図書館が定性的にも成長に苦労している様子が想像できるようになります。

藤沢市でも統計を取ってみれば、他の自治体と比較した現状認識ができると思います。

小泉委員長 今井議員からの一つ目の質問「学校図書館と公共図書館の連携」について、より良いサービスを公共図書館としていかにしていくかというご提案ですね。生徒の貸出数等のデータを押さえておくということは非常に大事かと思っています。

富田委員

学校と本といえば、小学生の子どもから、暑くて休み時間に外で遊べないという話を聞きます。室内で休み時間を過ごさなくてはけない時に、図書室にいる人数が前より増えたとも聞きました。さきほど電子図書も全てのコンテンツが利用できるのご説明もあったので、「本を読みましよう」と学校も積極的にアピールできると、子どもたちが本に触れて、電子図書も含めて本の活用が進むのかなと思いました。

小泉委員長

今のお話に関連して、学校と図書館の協議会というか、打ち合わせ等はどの程度の頻度でなさっていますか。

事務局

(饗庭館長)

学校との継続的、定例的な打ち合わせの場は設けておりません。現在は子ども読書活動推進計画策定委員会において、現場の先生方のご意見をお聞きする場を設けております。また、策定期間でなくとも、子ども読書活動推進会議を定例的に開催しており、教育委員会の教育指導課・教育総務課が委員として出席しておりますので、そこを通じて学校や先生方の現状を把握しております。会議以外にも、年度当初の校長会や、学校図書館専門員の会議等に出席する際にご意見をいただいたりもします。そのような機会のほか、日々の団体貸出や見学等で来ていただける先生方ともつながりを持ち、学校連携を進めているところでございます。

小泉委員長

意見交換はできていると考えてよろしいのでしょうか。いまのご説明を伺っていると、先生方とお話をする場が、特定の目的の下での打ち合わせの時か、日々の団体貸出の際にという、大きく分けると二つしかなく、どのようにサービスを提供していったらよいか、といういわゆる日常のサービスについての議論の場が欠如しているように感じました。

いまご説明いただいた場で十分意見交換できているのであればよいと思いますが、他の自治体では定期的に会議を開いているところもあります。今井議員の一つ目の質問に対する回答で説明されている内容は、今では当たり前のサービスで、世の中では、複合施設が増え、学校と公共図書館の連携が増える中で、どんどん図書館サービスは向上しています。公共図書館として学校図書館のサービスが次の段階に向かっている中で、それに対応していけるのかというところを心配しております。

事務局 (饗庭館長) たしかに、日常のサービスについての定例的な意見交換の場は、設置できていないのが実情です。それで十分かと言うとそうではないと思っております。子ども読書活動推進計画の中の事業をどのように実施していくかについては、推進会議の中でも話ができます。けれども、現実的なサービスについて日常的な意見交換の場をどのようなかたちで設けるかについて、藤沢市は、小中を合わせて55校ございますので、どのようなかたちで集まっていたら話をするのか、委員長におっしゃっていただいたような形に近づけられるように、今後取組を考えていきたいと思っております。

小泉委員長 ありがとうございます。  
それでは、次の議題に移ります。  
議題(5) 事業報告(5月～7月)について事務局から説明をお願いします。

事務局 (説明) 総合館・点字図書館(倉田補佐)  
南館(各館責任者)  
辻堂館(各館責任者)  
大庭館(各館責任者)

事務局 (饗庭館長) 追加でご報告です。7月8日から藤沢市のアートスペースで、8月6日から藤沢市民ギャラリーで、藤沢市に在住されていたかこさとしさんの作品展を行っており、8月24日をもって全て終了いたしました。図書館職員は市民ギャラリーで従事しておりましたが、日々かなりの方が来られまして、第一、第二、第三の三つの展示室の延べ来場者数は約1万人と速報値で出ていたようです。大変盛況な作品展でございましたので、次回の協議会の時にご報告をさせていただきたいと思っております。

小泉委員長 ありがとうございます。作品展には、お子さんがたくさんいらっしゃって盛況だったとのことで大変良かったです。前は時間の都合で詳しく聞けませんでした。各館の展示についても、大変興味深い展示をたくさん行っていらっしゃいますね。

南館では、外部の講師を招いた講演会は「初めて」と強調されていま

したが、何か特別な意味などあるのでしょうか。

南館責任者

これまでも外部の方を講師としてお招きすることはありましたが、日本大学の先生にお願いするのは南館としては初めてで、印象深い行事だったため、そのようにご紹介させていただきました。

日本大学の骨の博物館が、県内の大学図書館として博物館に認定されたというニュースに着目しました。実際に骨の博物館を見学させていただき、偶然、講師の田中氏とお会いすることができました。

日ごろから、夏休みの子どもたちに向けて、おはなし会以外の科学的なテーマで、狭い会議室でもできるイベントをやりたいと考えておりました。また、骨の博物館の紹介記事でも、外部の方にもっとPRしたいとのことだったので、思い切って依頼した次第です。

小泉委員長

図書館司書として、日常の中で良い機会があったら拾い上げていくスキルがあると非常に良いことだなと思いました。

普段、外部の方を講師としてお招きする際、依頼や打ち合わせ等どのように進めていらっしゃるのか、南館だけでなく図書館全体として教えていただいてもよろしいですか。

事務局

(饗庭館長)

講演会やワークショップ等の講師の先生をお願いする際には、企画担当者の経験や、情報収集した中で、お願いできる方にご連絡差し上げる場合もあれば、今まで藤沢市に長年ご協力をいただいていた方をお願いする場合もあり、様々なところでつながりを持ちながら、事業を企画しております。

特に、最近は庁内の他課とのつながりを大事にしながら展示を行っており、やり取りの中で、図書館が今までご縁がなかった方をご紹介いただくこともあります。そういったつながりからご依頼することもあれば、担当者の裁量で、全くつながりのない方にお声かけする場合もございます。

小泉委員長

全体を通して、司書以外の外部の方が企画された展示や行事が、やや少ないかもしれないと思いました。

今回の協議会で取り上げた、アンケートの自由意見、生活・文化拠点

の再整備に向けたサービスの検討、議会報告での学校図書館との連携の中で富田委員からお話いただいた小学生のニーズといった、図書館の外のニーズを捉えていくと、必然的に、図書館だけではできないイベントや展示の必要性が出てくるので、もっと外部の方の力を借りないと、成り立たなくなっているはずですが、もちろん、図書館司書としての専門性を活かせる読書関係のサービスや、夏休みのイベントも大盛況で素晴らしかったと思いますが、社会的な課題、時代の変化に合わせた図書館サービスというところを踏まえると、イベントも外部の方々にお問い合わせを得ない状況になっていいはずなのに、それが少ないように思いました。

今回の協議会全体を通して、アンケートのクロス集計をしっかりとやっていただくのと、学校との連携を通して子どもたちのニーズを聞くことに力を入れたほうが良いと改めて思いました。

そのうえで、前回立てたアクションプランの進捗状況について、今回議題に入っていなかったのも、こまめに報告があってもよいのではないかと思いました。一年間のまとめですと、年度末に負担になるので、次回、アクションプランの各領域について状況の報告があつていいのかなと思います。その時に、順調な部分とそうでない部分の原因をアンケートの分析からも推察できます。まずはニーズを捉えるところに集中した方がいかもしれません。あとはアクションプランと合わせた分析を図書館協議会としてはやってみてはいかがでしょうか。

事務局  
(饗庭館長)

図書館に対するニーズを、いろいろな機会に捉えて把握していくことを、これからも続けていきたいと思えます。アクションプランについても、館内で動きはあるので、次回、状況をお伝えしたいと思えます。

小泉委員長

その時には、アンケート調査の分析も進んでいるでしょうし、それが今後のアクションプランのビジョンにつながっていくでしょう。また、今回のアンケートでは含み切れていない部分もあると思えますので、アンケートを分析する中で、あるいはビジョンを作る中で、あるいはサービス・展示・行事について考える中で、不十分な部分や詳細に知りたい部分があれば、次のアンケートに含められるように、一体的に進めていくのが良いと思えました。

服部委員

事業報告について質問させていただきます。展示は思いがけない書籍との出会いの後押しということで、ものすごく皆さん考えてらっしゃっていますね。今年は昭和百年なので、昭和の人物写真とか、片岡球子の作品とか、相模湾とか、地域資料をととても上手く活用した展示多かったと、実際に目にして思いました。

総合館だけではもったいないので、次は南館、次は大庭館など、内容はそのまま別の館で展示したことは今まであったのか、あるいは支障があってできないのか知りたいです。すごく良い展示なので、再活用するのも一つの手かなと思います。

事務局

(饗庭館長)

皆さま興味を持って展示をご覧いただきありがとうございます。市民の皆さまからもお褒めの言葉をいただくところもございます。過去に4館で継続的に同じ展示をしたことはございます。そのような展示の形も視野に入れていく一方で、各館の職員がそれぞれアイデアをたくさん持っているので、最近では、館ごとにいろいろな展示をご用意しております。いただいたご意見を受けて、評判の良かった展示や、二度目三度目でもご覧いただけるような展示は、時期や場所を変えて展示してもよいと思いました。

小笠原委員

二つ話をさせてください。一つはアンケートの件でして、これから分析集計するということですが、今回のアンケートには何かコンサルタント等入っているのでしょうか。

事務局

(加藤補佐)

今回のアンケートにコンサルティング会社等関わっておりません。

小笠原委員

民間企業では、顧客満足度の調査や改善点の洗い出しに NPS（ネットプロモータースコア）を採用することが多いです。一度、参考までに検索していただければ、次回のアンケートに役立つと思いました。

もう一点ですが、図書館はチーム FUJISAWA2020 に登録していませんよね。他の部署では、ボランティアの募集や、情報発信で活用されています。図書館でも登録してみてもいいでしょうか。

寺田委員

展示についてですが、数年前に湘南大庭市民図書館で、南相馬市の図書館の東北大震災のパネル展示を展示しているのを見ました。現地の図書館員と交流をして展示に至ったとお聞きし、職場の外の人たちとのつながりを活かして用意された展示に感心しています。それから、南市民図書館の植物の展示と関連しまして、先日、長久保公園のみどりの図書室を見た時に、図書館とつながらないかなと思いました。一つ目の質問ですが、専門図書館の図書室の本は、市の図書館の蔵書目録の中に入れて、検索結果に出るようになっているのでしょうか。

事務局

(饗庭館長)

長久保公園独自の専門図書室なので、こちらとつながりはありません。

寺田委員

君津市では25年前の公共図書館開館時に、学校図書館の蔵書を一元的に共通目録化（MARC化）して、相互検索や貸借できる仕組みにしています。同様に、藤沢市でも、専門的な市内図書室と公共図書館が書誌情報でつながっていることに市民が気づけたら、図書館開架の資料世界の奥行きや専門性が広がって、面白いのではないかと思いました。

それから、図書館の企画展示が、開架資料のどこかにつながる起点になっていることを気づかせる掲示などされているのでしょうか。例えば、館内の書架や、藤沢市内の別の施設に、より詳しい資料がありますよ、といった、次につなげるような工夫があるとよいと思いました。

事務局

(饗庭館長)

二点目のご質問、展示につきましては、ご覧になった方と本や資料をつなげるという意図もございます。今、寺田委員がおっしゃったように、展示からさらに書架につなげることによっていろいろな分野の世界が広がっていきますので、そのような展示方法を4館で検討してまいります。

小泉委員長

ありがとうございました。

それでは、予定されている議題は以上となりますが、その他、事務局より報告などはありますでしょうか。

事務局

(増田主幹)

他図書館の視察の予定についてご報告いたします。

今回、アクションプランをまとめるにあたって小泉委員長とやり取り

をしている中で、他の自治体の図書館を見てはどうかとのご提案をいただいております。庁内で他自治体への視察の募集がございまして、この度、図書館の視察が認められたので、この件につきまして簡単に情報共有をしたいと思っております。

小泉委員長にご紹介いただきまして、愛知県豊橋市のまちなか図書館と田原市の図書館へ視察に行く予定です。今、先方と日程調整をしているところでして、おそらく12月頃になりそうなので、訪問自体は次の協議会の後になると考えております。

現在視察前の準備を進めておりますが、もし委員の皆様から、見ておくべき点などご提案がありましたら、ぜひ教えていただきたいと思っております。図書館協議会では視察後にご報告したいと考えておりますが、せっかくの機会ですので、きちんと準備をして参りたいという意気込みも込めて、今回の協議会の中で共有させていただきました。

小泉委員長

私から補足いたします。田原市の図書館は、さまざまな社会問題に対するサービスを開発して賞を取っています。目新しい図書館、豪華な建物というわけではなく、藤沢市より規模の小さい図書館ながら、人手を介したサービスを生み出しています。新しいサービスのアイデアや進め方をかなり学べるのではないかと思います、ご紹介させていただきました。

一方、まちなか図書館は建物が新しい、いわゆる21世紀型の図書館です。規模はそこまで大きくありませんが、空間の切り方や、限られた空間における工夫がなされています。空間とサービスが一体となり、活発なサービスの実現につながっていますので、空間の使い方も含めて、新たなサービスの可能性を見出だせると思っています。一度の出張で二か所視察できる立地条件もご紹介した理由の一つです。

他の委員の皆様からも、聞くべき点などご提案があれば、会議後でもご連絡いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

小泉委員長

以上でよろしければ、事務局から連絡事項はございますか。

事務局

次回会議は11月20日（木）10時から開催予定です。

（高田補佐）

今回同様Zoomによるオンライン開催を予定しています。

この日程で出席が難しいようであれば事前に事務局までご連絡くださ

い。よろしくお願ひいたします。

小泉委員長

他に委員の皆様から何かございますでしょうか。

それでは以上で令和7年度第2回藤沢市図書館協議会を終了します。  
ありがとうございました。

以 上